

竹内 茜（関西学院大学日本語教育センター）

1. 到達目標

ゼミでの研究発表さらには、学会での発表も視野に入れ、プレゼンテーションする際の留意事項を学び、実際にプレゼンテーションを行う。また、行われたプレゼンテーションについて、自己評価・相互評価をし、客観的に見る力を養う。

2. 2014 年度の授業内容

主な授業内容は、以下の6点である。

- (1) プレゼンテーションの留意点を学ぶ
- (2) 要約文・グラフ発表
- (3) 自由課題のプレゼンテーション及びその相互評価・自己評価
- (4) わかりやすいスライドの作り方・引用について・フィラーについて
- (5) 専門分野についてのプレゼンテーション及びその相互評価・自己評価
- (6) パラフレーズ演習

3. 成果と課題

学期の最後にアンケートを取った結果、プレゼンテーションを録画したものを、次の授業内で見る時間を設け、お互いに評価しあえたことが役に立ったという意見が多かった。客観的に見ることで、自分の欠点などがわかったという。

発表の場における質疑応答で、適切に受け答えできるようになりたいという要望があったが、専門の違う学生同士が、各自の専門について発表するため、質疑応答で出る質問が本番の場面とはかけ離れたものになることが多く、その点に対応するのが困難であった。質疑応答を授業でどのように扱うかは今後の課題としたい。

4. 今後に向けて

発音や文法等の間違い、発表の際のマナーなどを勉強したい、スライドの作り方を学びたい、日本語の運用の練習をもっと増やしてほしいという意見があったので、今後は、そういったことも取り入れていきたい。

参考文献

- 後藤文彦 2008 『良いプレゼント悪いプレゼン—わかりやすいプレゼンテーションのために』 カットシステム
- 石黒圭編著 2011 『会話の授業を楽しくするコミュニケーションのためのクラス活動40』 スリーエーネットワーク
- 鎌田美千子・仁科浩美 2014 『アカデミック・ライティングのためのパラフレーズ演習』 スリーエーネットワーク
- 村上治美 2010 『日本語中級表現—アカデミック・ジャパニーズ表現の基礎』 東海大学出版会
- 齊山弥生・沖田弓子 1996 『研究発表の方法—留学生と日本人学生のためのレポート作成・口頭発表の手引き』 産能短期大学出版部